

## 2009 年度第 1 回阪神地区研究会 報告

平成 21 年 8 月 6 日作成

日時：2009 年 8 月 5 日（水） 13:00～16:40

会場：三宮研修センター

テーマ：「再考 図書館という場、もの」

図書館利用教育や学習支援が行われるようになって久しいが、本を読まない、ネット世代の学生たちを図書館に呼び込むことは難しいと多くの図書館員が感じているのではないだろうか。今回の研究会では、これまで大学図書館であまり扱われてこなかった読書論、図書館を身近に感じてもらうための実例を通し、書物、資料、そして図書館との出会いの演出の可能性を感じ、改めて「図書館」を捉えなおすきっかけとしたい。

演題：「学生の読書と図書館利用 ～大学図書館の可能性に期待して」

深井 耀子（相山女学園大学 名誉教授）

### 【内容概要】

学生が本を読まないと言われる声は多いが大学図書館としての「読書」への取り組みはまだ少ないように思う。「読書をしたいのだから無理、どうしたらよいのか」と学生から相談を受けるので教育の場面で読書のきっかけを作れないかと試みた経験から話題提供をする。

事例発表：「図書館の活性化を目指して

～図書館応援企画展『展 FINAL in 図書館』がもたらしたもの」

多賀谷 津也子（大阪芸術大学図書館 課長）

### 【内容概要】

図書館の利用（入館者数や貸出冊数）が減少傾向にある昨今、その原因を若者の活字離れの為と嘆くだけではなく、何か良い方法がないかと模索する中、学生に「マイライブラリ」のポスターを作成してもらえないかと頼んだことがきっかけで、昨年 12 月、図書館のスペースを利用して、～大阪芸術大学のさまざまな学科の院生・助手・副手による作品主体の展覧会～図書館応援企画展『展 FINAL in 図書館』を開催する運びとなった。学生や教員を巻き込んでの図書館活性化は、非常に意味深いものだと考える。その取り組みについて紹介する。

申込校数：61 校

申込人数：87 名

参加人数：85 名（欠席報告:3 名 当日参加:1 名）

以上